

玄海地区漁業スマート化実証事業

伊藤 毅史・山田 秀樹・吉田 幸史

佐賀県玄海地区における沿岸漁業、海面養殖業および定置網漁業の漁家経営は、漁獲量の減少、魚価の低迷、コスト増等により厳しい状況にある。これらの課題に対応するためには、漁業の効率化が必須であると考えられる。そこで当県は、国の事業等を活用し、漁業のスマート化に向けた試験研究に取り組んでいる。

本事業は、これまでに取り組んできた国の事業等の成果を踏まえ、県内漁業でのより効果的な活用方法を確立するための実証試験を行うとともに、開発した技術の普及を図ることでスマート漁業を推進することを目的としている。

内容および結果

1. 漁海況予測システムに基づく操業試験

漁場探索に伴う燃油消費を抑え、安定的な収益確保を図ることを目的として、令和4年度にはケンサキイカの漁場予測モデルを先行的に構築した。令和4年6月から9月にかけて沿岸いか釣漁業者に対して漁場予測図を試験的に配信する取組を実施した。また、9月には、漁場予測図に基づく試験操業を実施した。本試験結果の一部については、現在原著論文として投稿中。

2. 漁況と海況との関係解明に関する試験

沿岸いか釣漁業と延縄漁業の主な対象魚種であるケンサキイカとアカムツの漁獲に影響する環境要因を解明することを目的として、令和4年度には当該漁業において操業毎の漁獲重量・個体数、海洋環境（水温、塩分、流向流速）および魚群反応量を収集した。また、一部の漁業者では1時間ごとの漁獲個体数と主な漁獲水深帯を記録する試験を実施した。本試験の結果は現在とりまとめを実施しており、令和5年度中に学術雑誌への投稿を予定している。